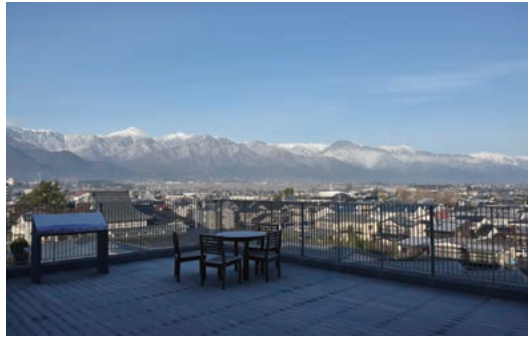


わが

「北アルプスに生まれ 共に響き合う 田園産業都市 安曇野」を目指して

北アルプスの麓に広がる 名水の里

安曇野市は、長野県のほぼ中央部に位置し、平成17年10月1日に5町村の新設対等合併により誕生した、雄大な北アルプスの麓に広がる清らかな水と豊かな自然に恵まれたまちです。



庁舎展望デッキから北アルプスを望む

内陸性気候の特徴である寒暖差を生かした稲作、リンゴをはじめとする果樹類や野菜類、また、ハウス栽培の夏秋イチゴの生産も盛んです。さらに、北アルプスからの雪解け水が伏流水となって湧き出る、豊富な地下水を利用した養鱒

や、生産量日本一を誇るワサビの栽培も行われています。年間を通じて13℃前後を保つ湧き水により、15カ月以上という長い時間を掛けて育まれる安曇野産のワサビは、高い風味、強い辛味、そして甘味を伴う旨味や、爽やかな後味が特長となっています。

また、北アルプスを背景に田園地帯の中に屋敷林が点在する安曇野は、昔ながらの原風景が色濃く残り、天然温泉や道祖神など多くの観光資源に恵まれ、大勢のお客さまにお越しいただいています。平成28年には環境省が行った「名水百選 選抜総選挙」で、「安曇野 わさび田湧水群」が観光地と景観の両部門で全国1位を獲得し、同年11月には、農業用水路である「拾ヶ堰」が「世界かんがい施設遺産」に登録されるなど、本市の景



世界かんがい施設遺産「拾ヶ堰」

観や水環境は日本全国に誇れる市民共有の財産となっています。

田園産業都市の創造

本市では、安曇野の自然環境や歴史・文化を守りながら、同時に地域産業を育み、暮らしやすさと産業発展のバランスの取れた魅力ある地域を目指し、市の将来都市像に「北アルプスに生まれ共に響

き合う 田園産業都市 安曇野」を掲げています。

この将来都市像を具現化するため、「いきいきと健康に暮らせるまち」「魅力ある産業を維持・創造するまち」「自然環境を大切にす

るまち」「安全・安心で快適なまち」「学び合い人と文化を育むまち」を五つの基本目標に据えて、諸施策を展開しています。中でも「いきいきと健康に暮らせるまち」では、安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりに力を入れており、不妊・不育症治療に対する助成や、母子・子育て相談窓口の開設、また、認定こども園の整備推進、恵まれた自然環境を生かした信州型自然保育の展開など、切れ目ない支援策で子育て世代を応援しています。

超少子高齢化と人口減少社会が急速に進展する将来を見据え、市民の生活、地域の産業、自然環境、安全安心、教育文化それぞれの領域を総合的に高めることで、誰もが暮らしやすい、住み続けたいと



農家民宿で田植え作業

近年は、都市部での需要の高まりと受け入れ農家の増加に伴い、令和元年度には、東京や千葉、大阪などから17団体・1334人を受け入れました。令和2年度は、約2000人の予約が新型コロナウイルス感染症の影響で全て中止となってしまいましたが、代替策と

実感できる持続可能なまちづくりを進めています。

農家民宿による関係人口の創出

本市では、平成27年から都市部の中学校や高校の教育旅行を受け入れる「農家民宿事業」に取り組んでいます。1泊2日の滞在中に、農業体験や郷土食体験、自然体験、さらには食事作りなどの生活体験を農家の一員となって体験してもらうことで、将来を担う若い世代の皆さんに安曇野の魅力を知ってもらい、観光振興や移住定住の促進にもつながる関係人口づくりを進めています。

して学校への農産物プレゼントやビデオレターの制作を行い、各校との関係が途絶えないよう交流を続けています。

日本一！自転車が楽しいまち！

市民の健康づくりや、来訪者の周遊などに自転車を積極的に活用してもらおう「自転車活用推進事業」を重点事業に位置付けています。

松本大学と連携し、自転車の利用が健康にどの程度有効かを検証する実証実験を3年にわたり進めており、これまで体重や血圧の数値改善、柔軟性、脚筋力の向上に一定の効果が確認されました。

令和2年4月には、新たなサイクリングコースを3コース設定し、今後、路面表示や案内看板の設置など、安全で走りやすい環境整備を進めてまいります。また、電動アシスト自転車を活用した「シェアサイクルシステム」の運用や、「キッズバイクスキルアップ教室」などの自転車安全教室の開催にも取り組んでいます。

さらに、本市在住で元五輪女子マウンテンバイク日本代表の小林可奈子さんと協力し、市内初となる里山を活用したマウンテンバイ

クコースの整備も進めており、自転車を楽しむ市民の皆さんの裾野を広げていきたいと考えています。本年度には「安曇野市自転車活用推進計画」を策定し、自転車が持つ健康増進や、環境への負荷軽減、観光振興による地域の活性化などの側面に結び付け、自転車文化を広げる施策を進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 331.78 km²
- ◆ 人口 9万7229人
- ◆ 世帯数 4万269世帯

〔将来都市像〕北アルプスに育まれ共に響き合う 田園産業都市 安曇野

〔まちな特徴〕水稲収穫量、製造品出荷額が長野県内トップクラスを誇り、豊かな自然と産業、人々の暮らしが共に息づく田園産業都市

〔市町村合併〕平成17年10月1日、豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が新設対等合併

〔特産品〕ワサビ、ニジマス、信州そば、



安曇野市長
宮澤宗弘



穂高天蚕糸、信州りんご、タマネギ、夏秋イチゴ、信州サーモンなど

〔観光〕わさび田、碓山美術館、田淵行男記念館、安曇野高橋節郎記念美術館、安曇野市豊科近代美術館、穂高神社、長峰山、北アルプス登山、国営アルプスあづみの公園、県営烏川溪谷緑地公園、旧国鉄篠ノ井線廃線敷、安曇野穂高温泉郷など

〔イベント〕早春賦まつり、信州安曇野ハーフマラソン、安曇野花火、信州安曇野新能、信州安曇野新そばと食の感謝祭・農林業まつりなど



マウンテンバイク親子教室

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住みたい！住み続けたい！ と思えるまち『ふるさと尾鷲』の再生

日本一の雨と歩む、
風光明媚なまち尾鷲

尾鷲市は、三重県南部、東紀州地域の中央に位置し、北は北牟婁郡紀北町、南は熊野市、西は大台山系を境に奈良県に接し、東は太平洋（熊野灘）に臨むリアス式海岸の入り江の奥にある、海と山に囲まれた風光明媚な地域であります。年間約4000㎜と全国でも降水量が多いことで有名です。これは「尾鷲の雨は下から降る」と言われるように、一度に大量の雨が降るためでありますが、日照時間は東京に比べ年間100時間も長いことで知られ



透明感のある上品な白身が特徴の「養殖マハタ」

ています。そうした温暖多雨な気候と黒潮によって古くからその自然の恵みを受け、林業、漁業が栄えてきました。特に、この尾鷲の急峻な地形と痩せた土壌という厳しい自然環境の中で、日本農業遺産の第1号に認定された「尾鷲ヒノキ」は、芯が強く、高品質に育て上げられており、全国にもその名が知られています。

一方、浦々には天然の良港があり、尾鷲港をはじめ九つの漁港を中心に、近海・遠洋・沿岸漁業を営みながら発展してきました。近年は「つくり育てる漁業」としてマダイの生産量が全国でも上位を占めるとともに、品質においてもトップブランドとして位置付けられています。



世界遺産熊野古道の魅力を伝える「三重県立熊野古道センター」

また、いにしえより「熊野詣で」「伊勢詣で」などで旅人が往来した熊野古道は「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されており、現在は保護・管理体制の充実を図り、その保全に努めながら、さらなる観光資源としての活用を模索しているところであります。

こうした豊かな自然、歴史文化を地域の資源として活用する中で、将来都市像である「海の碧山の緑あふれる情熱 東紀州おわせ」を目指してまちづくりを推進しております。

おわせSEAモデル構想の実現

少子高齢化・過疎化が急速に進展する本市におきまして、市民の皆さまが「安全・安心」に暮らしていただくための最重要課題として、「地域医療体制の確保」「財政の健全化」「新しい人の流れの創出」の3点を挙げております。

まず、人口約1万7000人の小規模自治体でありながら、「尾鷲総合病院」を抱える本市にとりまして、同院は24時間365日の一次・二次救急を堅持し、近隣市町を含め、地域の皆さまが安心して頼れる病院であり続ける必要があります。そのために、医師、看護師などの人材の充実、院内の環境設備やリニアック、MRI、CTなどの医療機器の充実に加え、



昭和25年から続く夏の一大イベント「おわせ港まつり」

これは、約19万坪（東京ドーム13・5個分）という広大な「中部電力尾鷲三田火力発電所」跡地を活用し、「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」を軸とした、産業・観光・市民サービスを融合した拠点として「再生」することで、人々が集い、活気あふれる尾鷲、さ

健全経営（経営の黒字化）を目指し、地域包括ケア病棟の導入やDPC制度への参加などの取り組みを積極的に進めています。これにより、「地域医療体制の確保」を図ってまいります。

次に、「財政の健全化」は、健全で持続可能な行政運営を行うために、全国のどの自治体にとつても必要不可欠であることは言うまでもありませんが、本市にとつて将来を展望する中で、最も重要な案が「新しい人の流れの創出」にも関わる「おわせSEAモデル構想」の実現です。

らにはその波及効果による、東紀州地域全体の地域活性化を目指すという、発電所跡地活用では全国でもまれな先駆的取り組みであります。

半世紀にわたり、本市の地域経済を支えた「中部電力尾鷲三田火力発電所」が平成30年に廃止となったことが、この取り組みを始めるきっかけとなりました。廃止になるに当たり、本市と中部電力との間で地域協定を締結した上で、具体的な検討を進めるために、本市・中部電力・尾鷲商工会議所の3者の組織を代表する者を会員とし、さらには、三重県や三重大学がオブザーバーとして加わり、「おわせSEAモデル協議会」を立ち上げました。

現在、協議会においては、「S（市民サービスと集客人口の向上）」「E（エネルギーの有効活用）」「A（アクア・アグリ）」の相互連携による「集客交流人口の拡大」と、産業の振興による「雇用の創出」を図るため、産官学が一体となり、具体的な事業の実現に向け、鋭意取り組んでいるところであります。

自治体としての財政状況の悪化

や、新型コロナウイルス感染症の影響が企業業績に及ぶ状況下にあつて、今後は「withコロナ」「afterコロナ」時代を見据え、さらには、「SDGs」「Society5.0」など時代の潮流を踏まえながら、より一層の効率的かつ効果的な施策の展開が求められています。

市民の皆さまとともに、住みたい、住み続けたいと思える「ふるさと尾鷲」を築いていくために、今後も市民の皆さまの声を大切に、尽力してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 192・71km²
- ◆ 人口 1万7242人
- ◆ 世帯数 9249世帯

〔将来都市像〕海の碧 山の緑 あふれる情熱 東紀州 おわせ

〔まちの特徴〕太平洋（熊野灘）に臨むリアス式海岸の入り江の奥にある、海と山に囲まれた風光明媚なまち



尾鷲市長
加藤千速



〔特産品〕尾鷲ヒノキ、尾鷲わっぱ、甘夏みかん、養殖マダイ、養殖マハタ

〔観光〕世界遺産熊野古道、三木海水浴場、夢古道おわせ、三重県立熊野古道センター

〔イベント〕おわせ港まつり、全国尾鷲節コンクール、おわせ海・山ツアー、ウォーク、尾鷲磯釣大会、尾鷲イタダキ市



毎月、尾鷲魚市場にて開催される朝市「尾鷲イタダキ市」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

Save the Sea 海の環境と歴史・文化を次世代へ 世界遺産シテイ宗像の使命

世界から評価された、
日本人が抱く
「海への畏敬の念」

宗像市は福岡市と北九州市の中間に位置し、豊かな自然環境と歴史・文化遺産に恵まれたまちです。両政令市への交通便利性が高く、昭和40年代からベッドタウンとして発展してきました。

また、玄界灘に面する宗像の地は、古代から大陸との貿易や文化交流の玄関口でした。絶海の孤島「沖ノ島」では、航海の安全を祈る国家的祭祀が行われ、その歴史を今に伝える「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、平成29年に世界文化遺産に登録されました。島そのものがご神体である沖ノ島は「島から一木、一草、一石たりとも持ち出してはならない」など

の厳格な禁忌があり、祭祀跡から発掘された遺物のうち、古墳時代から平安時代までの奉獻品約8万点は国宝に指定されています。

これら数多くの国宝が出土したことも貴重なことですが、「海への感謝」「海への畏敬の念」を抱き、1000年以上にわたり受け継いできた「宗像の人々」が世界に評価されたものと自負しています。

共感の輪で広げる環境保全 「Save the Sea」活動

海洋プラスチックや海水温の上昇など、海の環境問題はもはや海に生きる人々だけの問題ではない。国際的に取り組まなくてはならない21世紀の大きな課題であり、地球からのSOSだと思えます。昨年7月に「SDGs 未来都市」に選定された本市では「Save

the Sea」を合言葉に、市民、市内外の企業、団体に共感いただき、森・里・川・海の環境保全にまい進しています。

もともと環境保全への意識が高い本市では、全国に先駆け、資源ごみ分別回収や食用廃油せつけんづくりなどに取り組んできました。市民による環境美化活動「アダプト・プログラム」では約300もの団体が参加し、海辺や道路などで年間25tのゴミを回収しています。市内全校の小学4年生が宗像の命の水源・釣川を源流から河口まで見学し、生物や自然、水の循環を学習する「水辺教室」は、市民団体の手により30年以上も続く活動です。

海をメインテーマとしたシンポジウム「宗像国際環境会議」は令和2年で7回目を数え、世界遺産



多世代で取り組む海の環境保全活動

の海を守ってきた本市ならではのメッセージを国内外に発信しています。平成30年からは、製菓メーカーの株式会社湖池屋と「海の環境保全」をテーマとしたオリジナルポテトチップスを期間限定で毎年販売し、1袋当たり1円の寄付を海の環境保全に役立てています。

まちびらきから半世紀を 迎える団地の再生 「宗像・日の里モデル」

まちびらきから50年の節目を迎える九州最大級の団地「日の里団地」が、再生に向けて動き出しています。令和2年1月、UR都市



大島の北岸に位置し、渡航禁止の沖ノ島を望むことができる世界遺産「宗像大社沖津宮遙拝(ようはい)所」



団地1棟を丸ごとリノベーションする「さとづくり48」(旧48号棟)



出光佐三翁の生家が残る唐津街道・赤間宿

機構が公募を行った既存団地の土地建物(約1.8万㎡)の譲受人に、住友林業株式会社を代表企業とする共同企業体が決定し、再生事業がスタートしました。

企業、地域コミュニティ、行政が連携する事業のコンセプトは「サステイナブル・コミュニティ」。50年続いてきたまちの「次の50年」をデザインしようというものです。団地まるごと1棟をリノベーションし、クラフトビル工房、DIY工房、認可保育所の分園などが集う「生活利便施設エリア」と、大きな緑地を設け、それを囲むように住宅が建ち並ぶ「サトヤマ住宅エリア」の開発が進められます。これまで積み上げてきたまちづくり活動を踏襲し、新たな価値を創

造する「宗像・日の里モデル」は、全国の団地再生のモデルとなり得るものと確信しています。

「まちづくり」は「ひとづくり」 宗像から第二の出光佐三を

現在の本市の礎は、私が尊敬する郷土の偉人である出光興産創業者・出光佐三翁によって築かれたものです。佐三翁は私財を投じ、宗像大社の再建や沖ノ島の学術的研究に尽力しました。佐三翁なくして、世界遺産に選ばれることはなかったでしょう。その思いを受け継ぎ、かけがえのない歴史・文化遺産や海の環境を守り、次世代へ引き継いでいくことは、世界遺産シティ宗像の使命です。

教育・子育てを特に重要視する

本市では「人材」ではなく「人財」という言葉を使います。まちの財産である子どもたちには、出光佐三翁のように混迷の時代を生き抜く自立心と想像力を持った人に育ってほしいと思います。

令和2年7月にはスタートアップ支援・コワーキング施設「fabbit宗像」がグランドオープンしました。アフターコロナの時

プロフィール

- ◆ 面積 119.94km²
- ◆ 人口 9万7151人
- ◆ 世帯数 4万3502世帯

〔将来都市像〕ときを紡ぎ、躍動するまち

〔まちの特徴〕世界遺産をはじめとする歴史・文化遺産や豊かな自然環境を守り、伝える、市民協働のまち

〔市町村合併〕平成15年4月1日、宗像市・玄海町が合併。平成17年3月28日、大島村が編入

〔特産品〕鐘崎天然とらふく、玄海活



宗像市長
伊豆美沙子



きいか、宗像あなごちゃん、ワカメ、あかもく、ミカン、イチゴ、イチジク、椿油、むなつ猪(イノシシ肉)

〔観光〕宗像大社、世界遺産ガイダンス施設・海の道むなかつ館、道の駅むなかつ、大島、地島、さつき松原海岸、唐津街道・赤間宿

〔イベント〕宗像大社秋季大祭(みあれ祭・高宮神奈備祭、宗像あなごちゃん祭り、大島七夕まつり、宗像国際環境会議、ブルガリアフェスティバル

代では、大都市一極集中から地方分散への流れが一層加速するでしょう。国内外に拠点を展開する「fabbit」では、地方にいなながら世界のビジネスパーソンとつながるチャンスにあふれています。「地方発のグローバルな創業ができるまち」宗像から、自立心と想像力を持った「第二の出光佐三」を生み出したいと思っています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。